

八尾タイムズ

YAO TIMES

2012年(平成24年)

2月10日(金)

第200号

毎月10・20・30日発行(1ヶ月525円)

「ものづくり日本大賞」

優秀賞を受賞

レザックの自動分離機

経済産業省と国土交通省、厚生労働省、文部科学省は3日、第4回「ものづくり日本大賞」の内閣総理大臣賞受賞者19件76人を決定し発表した。また経済産業省では経済産業大臣賞と特別賞、優秀賞の103件549人の受賞者も決定した。このうち優秀賞に、レザック(柳本忠二代表取締役・若林町2)が開発した紙箱の製品とスクラップを分離する世界初の自動機

が選ばれた。同大賞は製造現場の核心を担う中堅人材や伝統的な技を支える熟練者、今後を担う若者など「ものづくり」に携わる各世代の優秀な人材を顕彰している。4省による連携で平成17年から隔年で実施されており、今回で4回目。当初は昨年夏に決定する予定だったが、東日本大震災の影響で遅れていた。経産省では全国

産大臣賞14件90人に加え特別賞19件137人、優秀賞70件322人を選んだ。レザックの受賞対象となったのは、段ボール箱などの量産工程で製品部分とスクラップ部分を自動で分離することができ「マスターブランカー」。

これまででは手作業などで分離していたため、コストや効率の面で課題となっていた。同社では上下に多数のピンを配置した装置を開発し配列を自在に変えることで、製品部分を支えスクラップ部分を落とすことを可能にした。こうした自動機の実用化は、世界でも初めてという。同社では受賞を機にマスターブランカーの販売にいったそう注力し、新技術の開発にも引き続き取り組んでいきたいとしている。近畿経済産業局では表彰式を来月上旬に行う予定。



ものづくり日本大賞「優秀賞」を受賞したマスターブランカーと開発者のレザック・柳本忠二社長